

子どもと関わる大人の現場ですぐに役立つ研修会

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘
〒981-0931 宮城県仙台市青葉区北山1-5-22

助成事業の概要

<対象>

保育所、児童館、放課後児童クラブ等 子どもと関わる施設・事業従事者全般

<日時>

①5月26日(日) 13:30～15:00

講師：大西貴子

(奈良教育大学特任准教授/臨床心理士)

講演

『「気になる子」の捉え方—ユニークな個性を生かす方法—』

②6月23日(月) 9:00～12:00

講師：

神谷明宏(聖徳大学准教授)

講演『KYTとリスクマネジメントについて』

③6月24日(火) 9:30～12:00

講師：

神谷明宏

講演

『小学生との遊び 展開するうえで大切なこと』

④3月1日(日) 13:30～15:30

講師：

汐見稔幸(東京大学名誉教授/日本保育学会会長)

講演

『AIの時代を生き抜く力』

対談

新田新一郎(当法人副理事長、アトリエ自遊楽校

代表)

話題提供

松村 弘美(当法人理事、アトリエ自遊楽校)

事業の成果

①5月26日(日) 13:30～15:00

講師：大西貴子(奈良教育大学特任准教授/臨床心理士)

⇒参加者数：91名(児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等)

「気になる子」の捉え方—ユニークな個性を生かす方法—というタイトルの通り、向き合う児童に対して個性をどう捉え受け止めるか、知識を深めるだけでなく、前向きに関わり学び合う姿勢についてお話頂きました。知識を基礎にした関わり、特にスタンスの取り方が分かりやすいと参加者から好評でした。

②6月23日(月) 9:30～12:00

講師：神谷明宏(聖徳大学准教授)

⇒参加者数：48名(児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等)

『KYTとリスクマネジメントについて』特に児童館、児童クラブ職員が多く参加頂きました。遊びが活発になりケガやトラブルが増える学童期におけるリスクマネジメントをグループワークの形式で深めました。初めて会った人でチームを組み、職員のリレーションを図る体験はまさに現場ですぐに役立つ体験になりました。もう少し参加者が増えると良かったが、連日の研修で参加人数が

分散したかもしれません。

③6月24日(火) 9:30～12:00

講師：神谷明宏（聖徳大学准教授）

⇒参加者数：58名（児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等）

『小学生との遊び 展開するうえで大切なこと』②同様、学童期における子どもの遊びにフォーカスした内容で、子どもたちにとって遊びは学びであり、生活習慣、体調管理を行う上でも重要な時間である、など学術的な証明のもと知識を深めることが出来ました。また、後半は集団遊びのワークショップを行い、知識と技術の調和の重要性を感じる内容の研修でした。

④3月1日(日) 13:00～16:00

講師：汐見稔幸（東京大学名誉教授／日本保育学会会長）

⇒参加者数：123名（保育園、幼稚園職員、児童館等職員、その他子どもと関わる職員、一般等）

テーマは「AIの時代を生きぬく力」。これからのAI発展による環境変化、技術革新に伴い、子どもが、人間が、何を育み、何をもとに生き抜く力としていくかについて深く考える内容でした。これからは記憶や細かな作業を深く学ぶのではなく、創作的な活動などを通して感性を豊かに育み、人間らしく生き抜く力を子どもたちに渡していく必要があるとお話されました。参加者からはこれからの教育、保育について本質的な話を、日本の第一人者である汐見先生から聞いたことで、自ら考え行動する勇気を頂けたような研修会となりました。アンケートでも非常に満足して頂いた様子がうかがえました。

成果の広報・公表

<広報>

・チラシを①1000枚、②1000枚、③1000枚、④2000枚の5000枚を印刷し、特に仙台市を中心に宮城県内の児童館、保育園、幼稚園、放課後児童クラブなどに配付しました。

・当団体が加入する、仙台市児童館・放課後児童クラブ連絡協議会や運営する施設の近隣保育園、幼稚園へ直接チラシを配付するなど行いました。

・Facebookにてイベント告知を行いました。

<公表>

・研修内容について、開催終了後に団体Facebookにて広く発信しました。

・事業報告書を作成し、法人が運営する施設に配付し、施設利用者が閲覧できるようにしました。

今後の展開

各地域や団体で様々な研修が開催されていますが、子どもの現場、特に福祉に関わる職員の研修はより専門的な、または同一県内の講師を招いてのものが多く現状があります。本事業のように、一般的な技術や知識でなく、それを扱う職員としての姿勢や子どもの見方など広い視野に立った学びを全国の著名な先生をお招きして学ぶ機会はなかなかないものと感じました。今後も専門的な学びを得にくい子どもの現場職員のために、誰でも参加でき、入場無料で本質的な学びや、職務に関する姿勢を改めて考えるような場を設け、子どもの笑顔のために職員が明るく楽しく仕事と向き合える環境づくりを続けていきたいと考えています。